

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表③について

文部科学省・国立教育政策研究所  
令和7年9月

## 目次

1. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要	・・・	2
2. 都道府県・指定都市別結果（公立）	・・・	5
(1) 分布や習熟度を目配りしたグラフ	・・・	5
(2) 都道府県・指定都市別結果チャート	・・・	13
(3) 都道府県（指定都市を含む）の散布図	・・・	30
(参考) 都道府県・指定都市別ノート（試行）の見方について	・・・	40

# 1. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査概要

調査実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生【悉皆】
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
今年度の調査の特徴	・CBT調査の導入（中学校理科） ・生徒質問でのランダム方式の試行 ・多様な生徒の状況把握 ・結果公表の内容、スケジュールの改善

## 3 調査結果の取扱いの改善の方向性

### ●結果返却スケジュールの前倒し

- 児童生徒の学びへの還元を最優先に、学校への結果返却の時期を前倒し。
- 国による結果公表は3段階に分けて行い、全国データに基づく分析結果をより効果的に発信するとともに、都道府県・指定都市の主体的な分析期間を確保。

### ●都道府県・指定都市別の結果公表の在り方

- 本調査の目的を達成する観点から、学びの改善につながる各種データを正確かつ効果的に公表し、調査実施主体として国が説明責任を果たす。引き続き都道府県・指定都市の単位で平均正答率・スコアを含む結果公表を行いつつ多面的に解釈することができる示し方に改善する。
  - ・分布や習熟度に目配りした統計表やグラフなどを示す
  - ・学力に影響をする他の様々な要素も組み合わせてメッセージを示す
  - ・質問調査も合わせた結果全体について、特徴を把握しやすい形で示す
  - ・表・グラフに加え、記述的な説明を充実する

7/14 公表①	全国的な実施状況 学校向け帳票・個人票提供
7/31 公表②	全国データに基づく分析結果
9/30 公表③	都道府県・指定都市別データに基づく分析結果

**4 全国（国公私）の正答率・IRTスコア ※7/14公表資料**

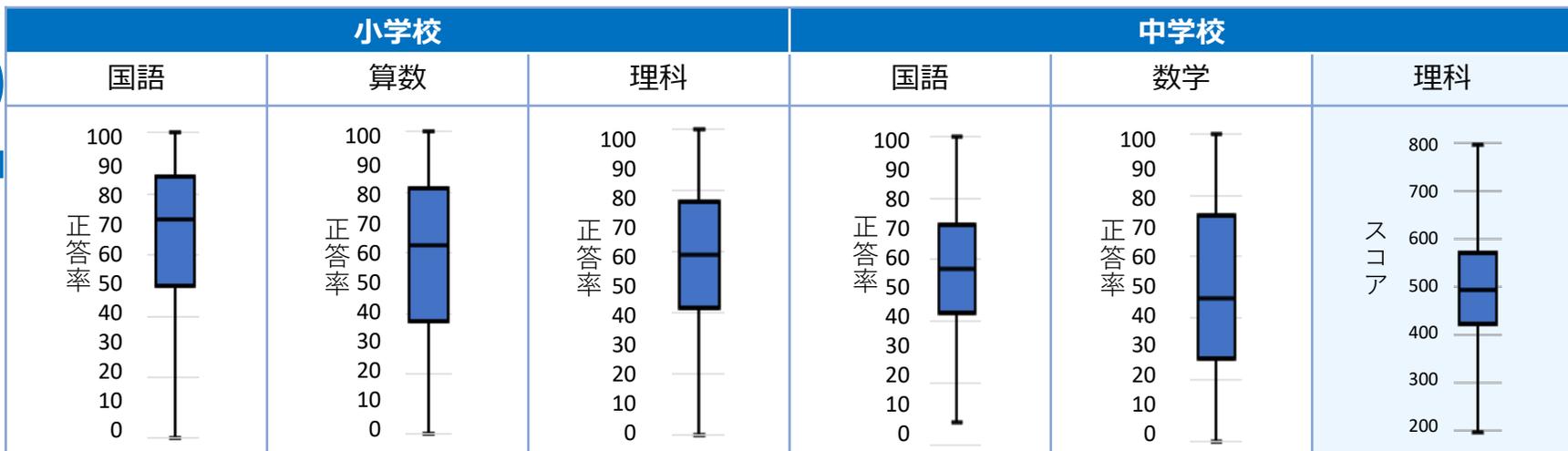
※中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

全国（国公私）の平均正答数（率）・平均IRTスコア

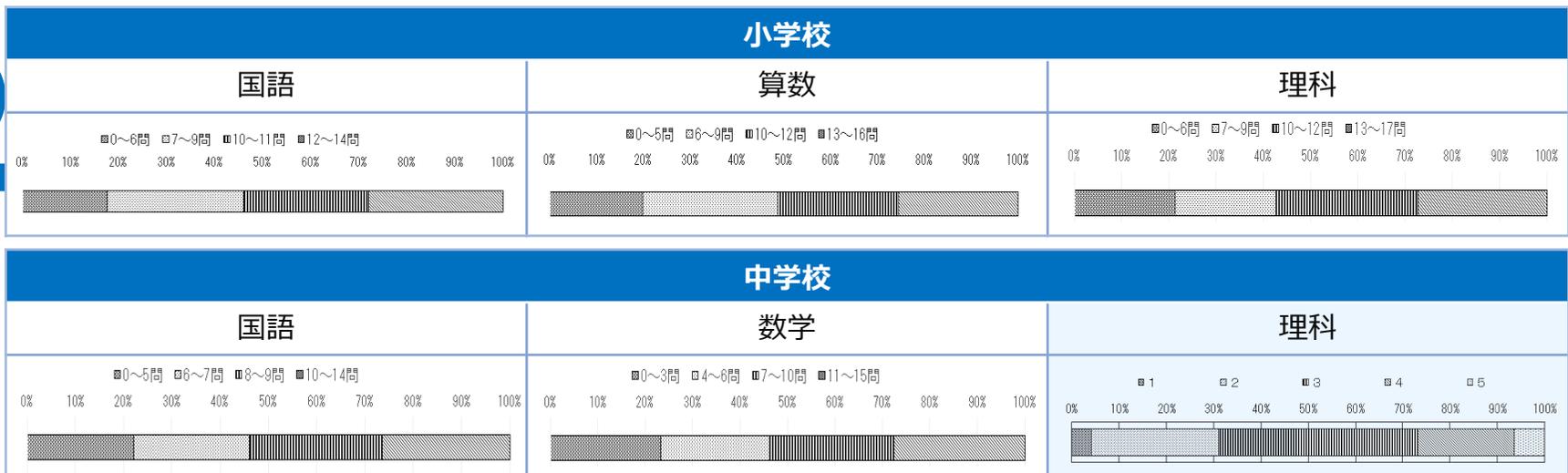
小学校			中学校		
国語	算数	理科	国語	数学	理科
9.4/14 問 (67.0%)	9.3/16 問 (58.2%)	9.7/17 問 (57.3%)	7.6/14 問 (54.6%)	7.3/15 問 (48.8%)	505

※各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、**過年度の結果と単純に比較することは適当ではない**ことに留意が必要。

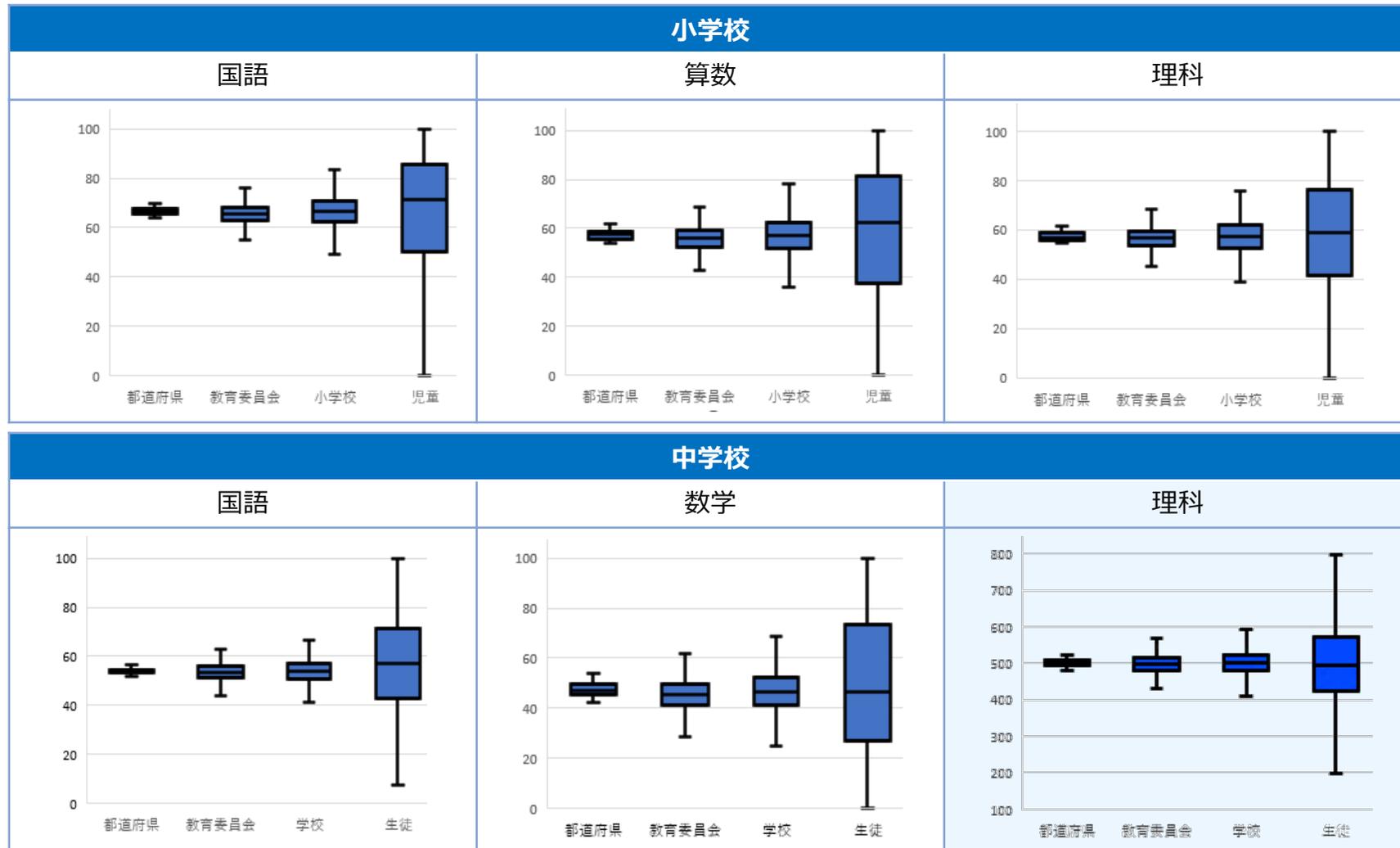
全国の正答率・IRTスコアの分布



正答数・IRTバンドの層分布



都道府県・指定都市別の平均正答率については、ばらつきの状況は極めて狭い範囲内に収まっている。各教育委員会、各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、前回調査と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。



※都道府県は指定都市を含む。

### 箱ひげ図

- 外れ値 (下記から外れた値)
- 第1四分位～第3四分位の1.5倍の長さに位置する値
- 第3四分位 (75パーセンタイル)
- 中央値 (第2四分位 (50パーセンタイル))
- 第1四分位 (25パーセンタイル)
- 第3四分位～第1四分位の1.5倍の長さに位置する値
- 外れ値 (上記から外れた値)

### パーセンタイル

計測値の統計的分布の上で、小さい方から数えて何%目の値は、どれくらいかという見方をする統計的表示法

## 2. 都道府県・指定都市別結果（公立）

### (1) 分布や習熟度を目配りした統計表やグラフ

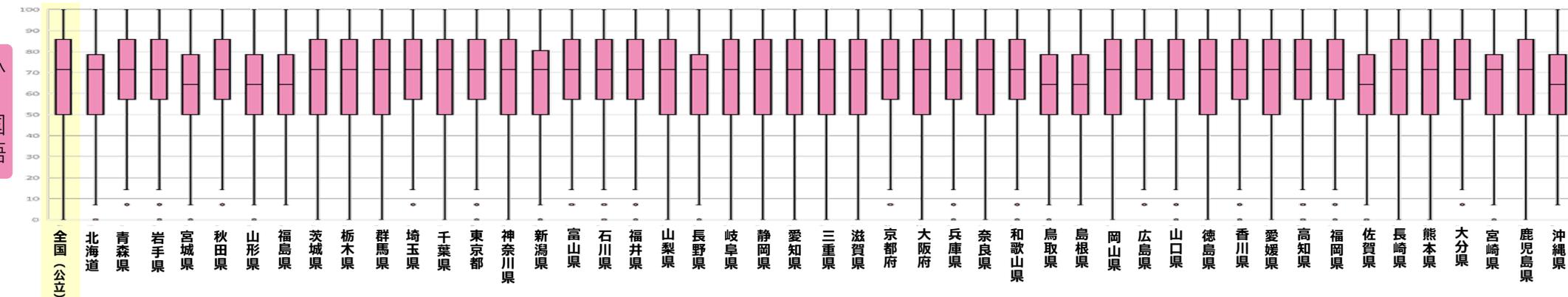
#### ① 都道府県（指定都市を含む）別箱ひげ図

ポイント

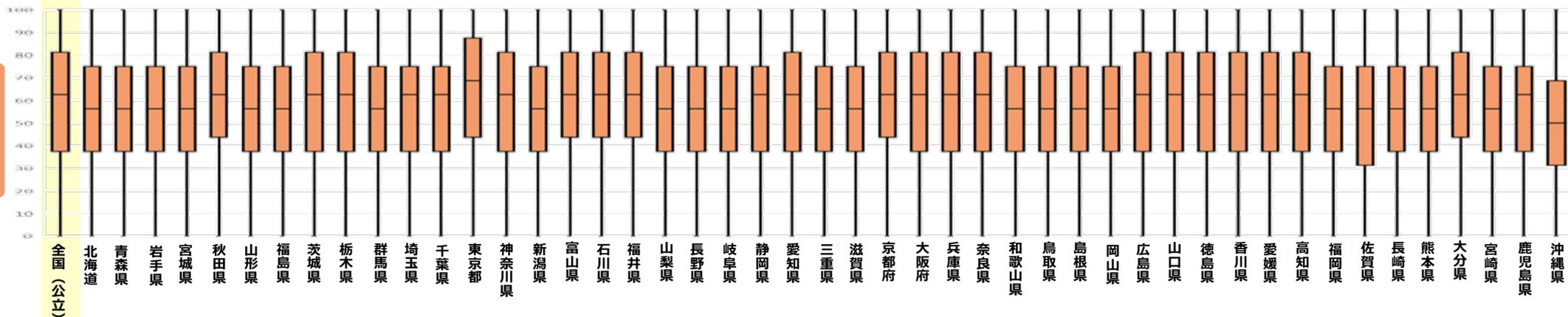
全ての教科において、各都道府県の平均正答率の分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差はみられない。

縦軸：平均正答率

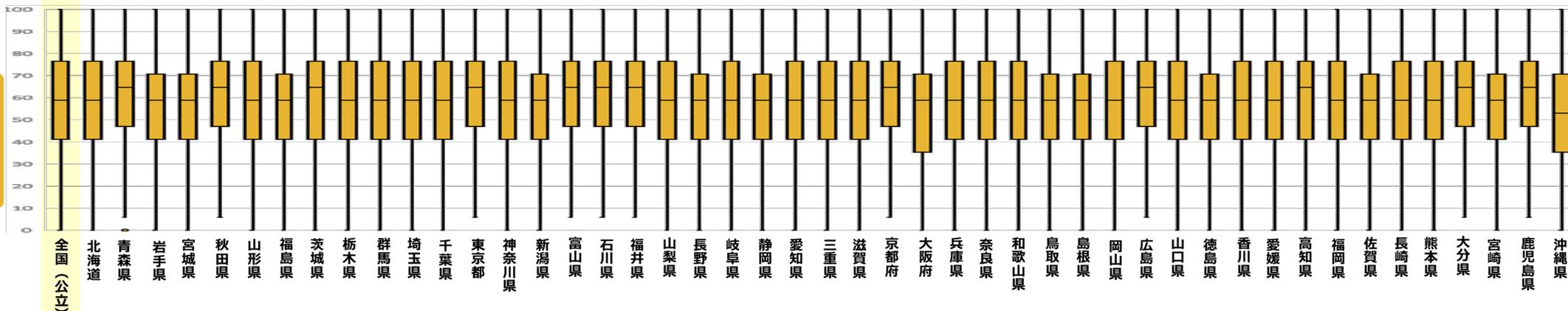
小・国語



小・算数



小・理科

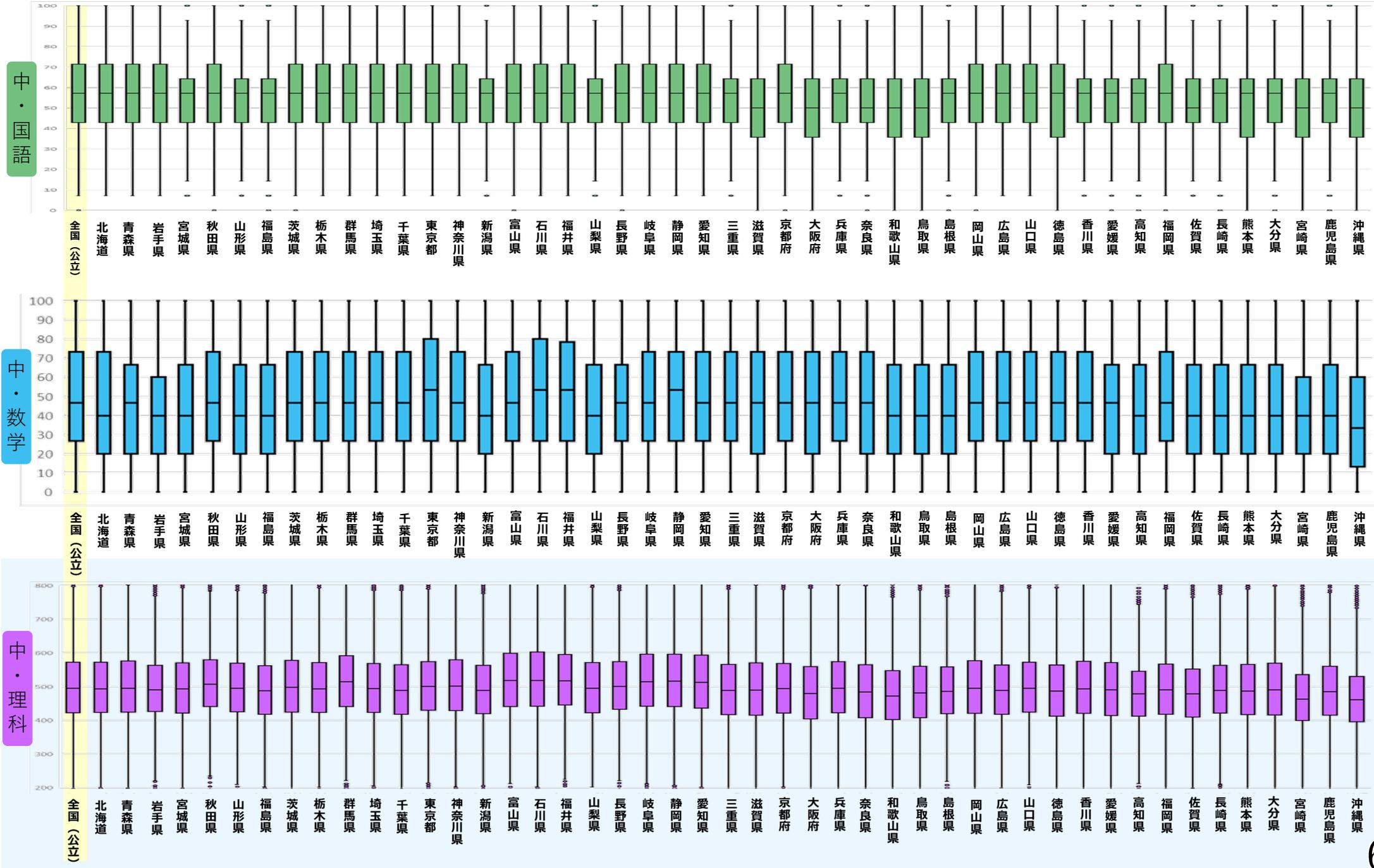


# ① 都道府県 (指定都市を含む) 別 箱ひげ図

ポイント

全ての教科において、各都道府県の平均正答率・スコアの分布は、全国的なばらつき傾向と大きな差はみられない。

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア



① 都道府県 (指定都市を除く) ・ 指定都市別

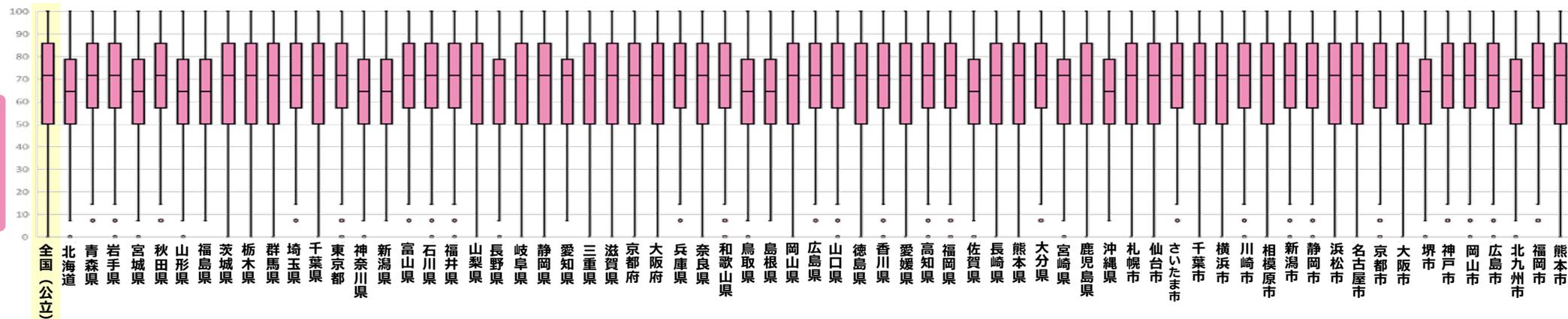
箱ひげ図

ポイント

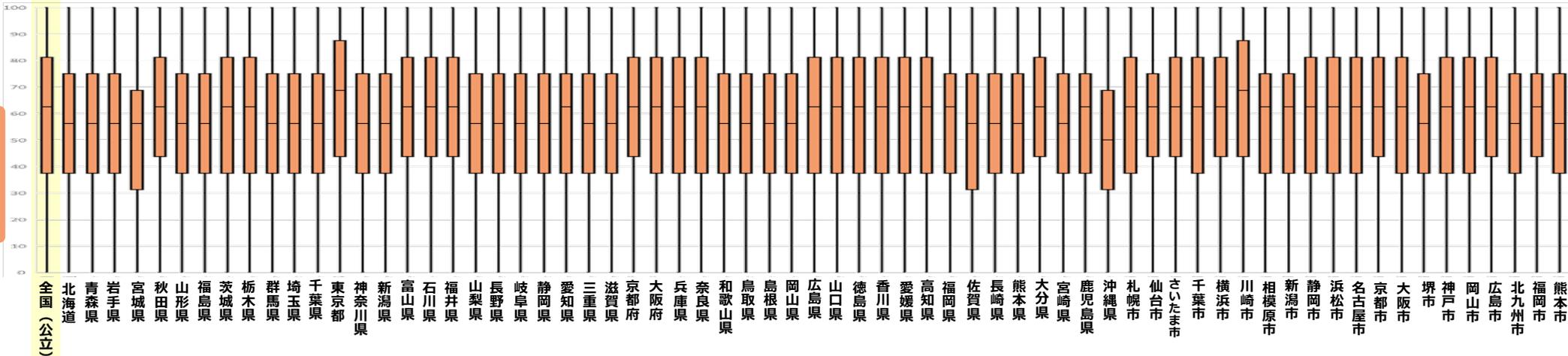
全ての教科において、各都道府県・指定都市の平均正答率の分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差はみられない。

縦軸：平均正答率

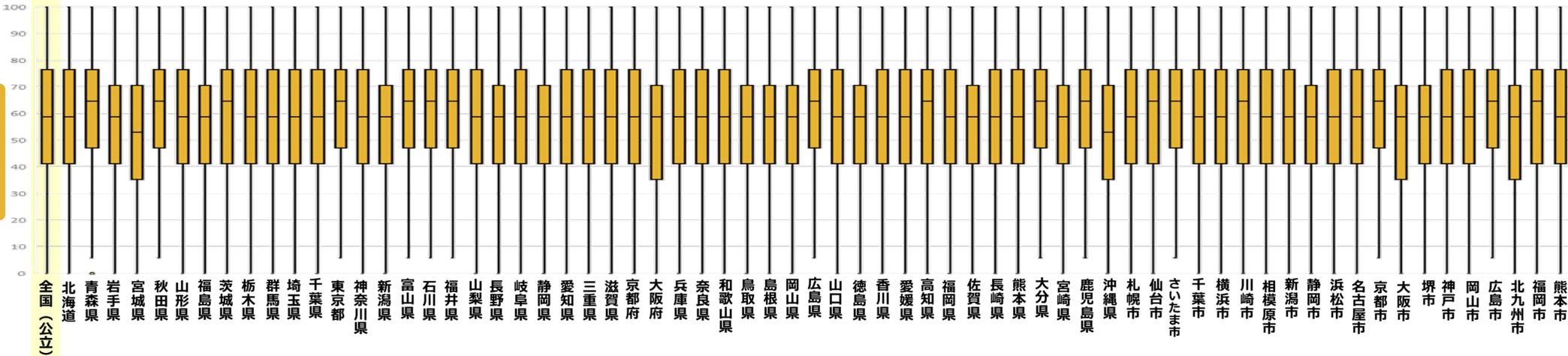
小・国語



小・算数



小・理科



① 都道府県（指定都市を除く）・指定都市別

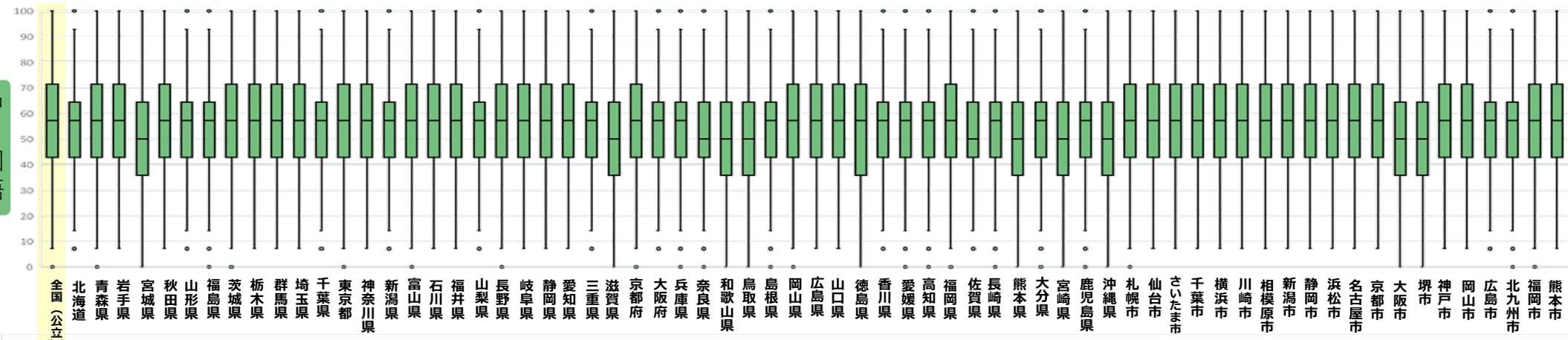
箱ひげ図

ポイント

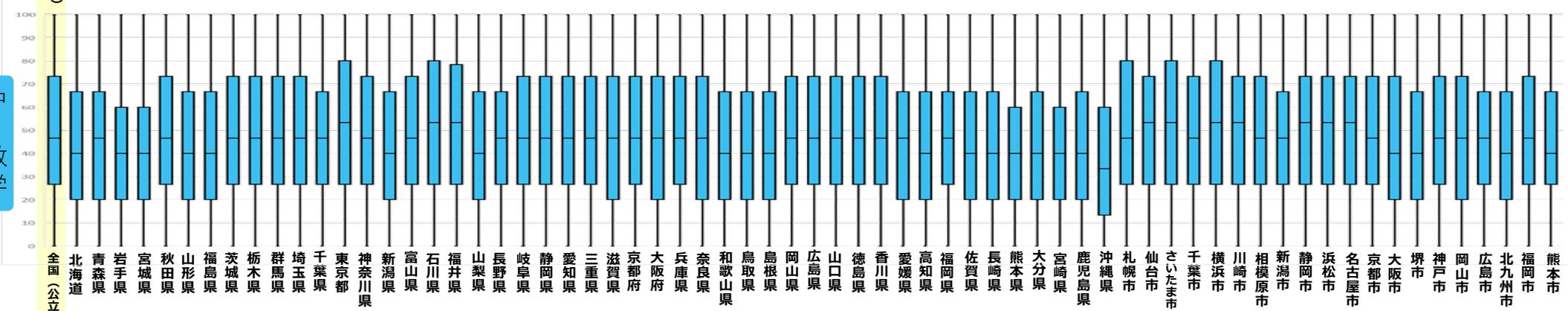
全ての教科において、各都道府県・指定都市の平均正答率・スコアの分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差はみられない。

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

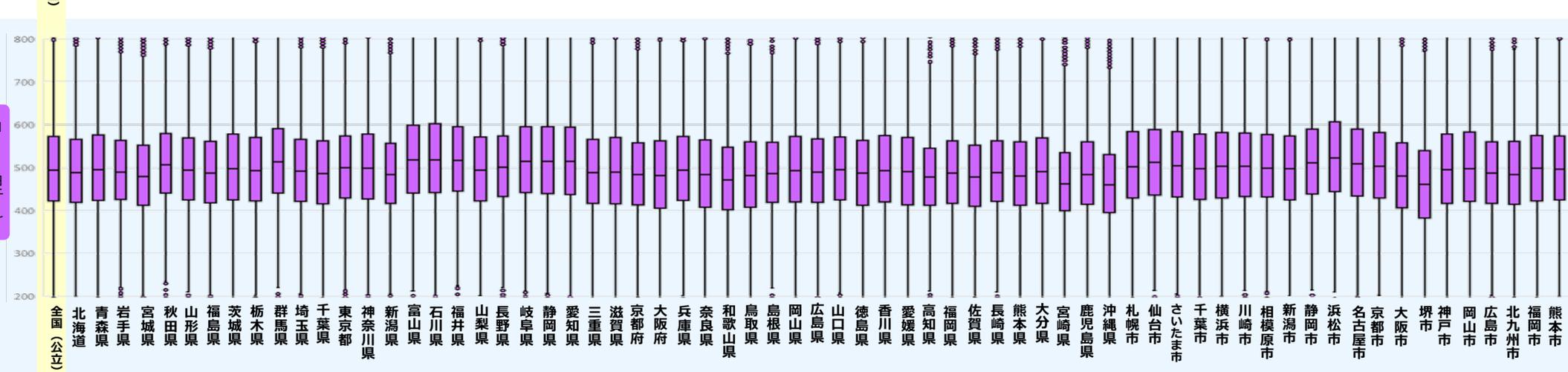
中・国語



中・数学



中・理科



### ③ 都道府県 (指定都市を含む) 別 正答数・IRTバンドの層分布

ポイント

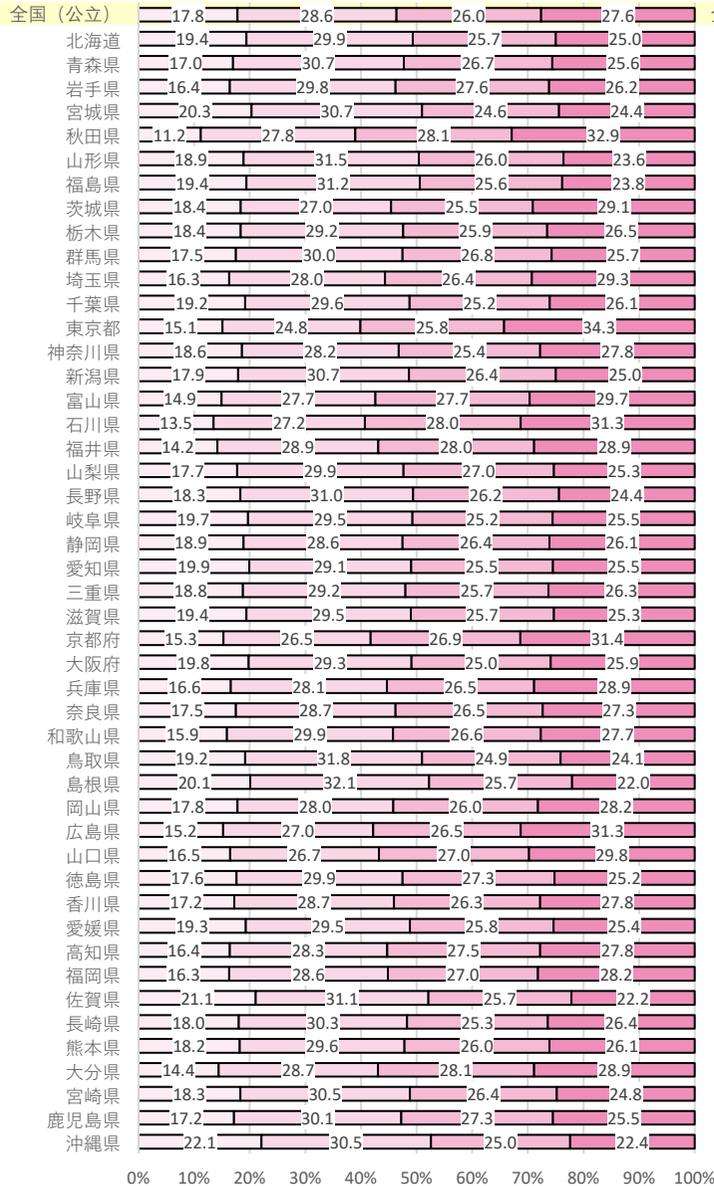
全ての教科において、各都道府県の正答数の層分布は、全国的な傾向と大きな差はみられない。

R7

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。

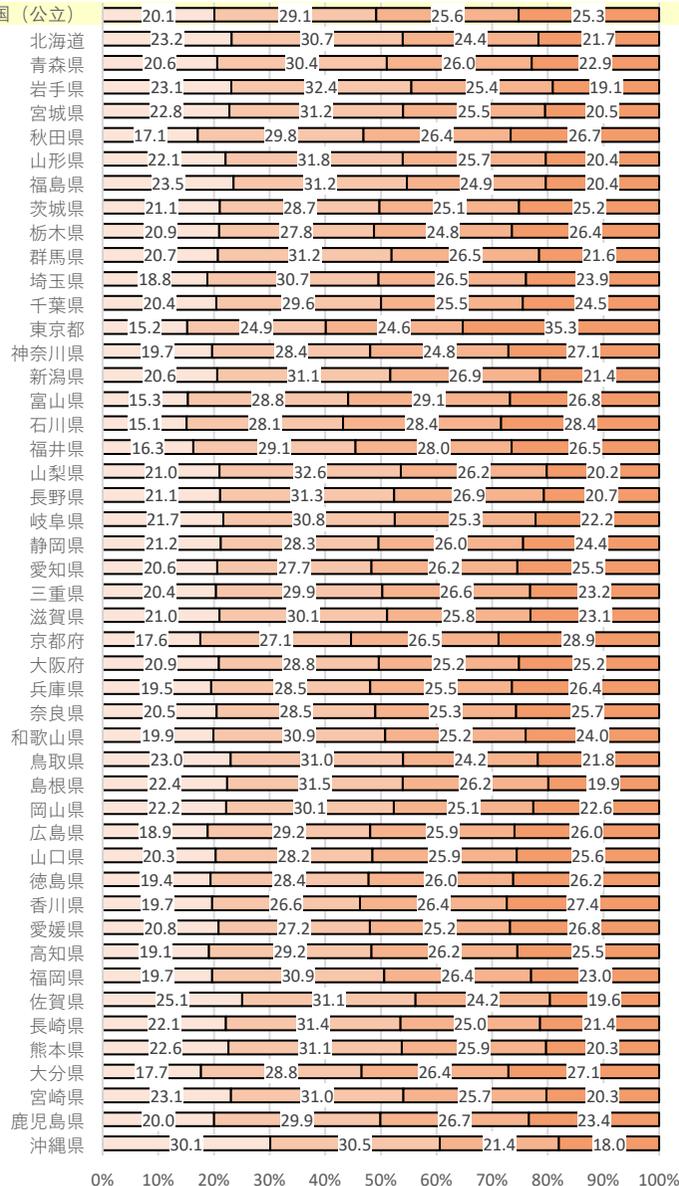
#### 小・国語

D層 0~6問 C層 7~9問 B層 10~11問 A層 12~14問



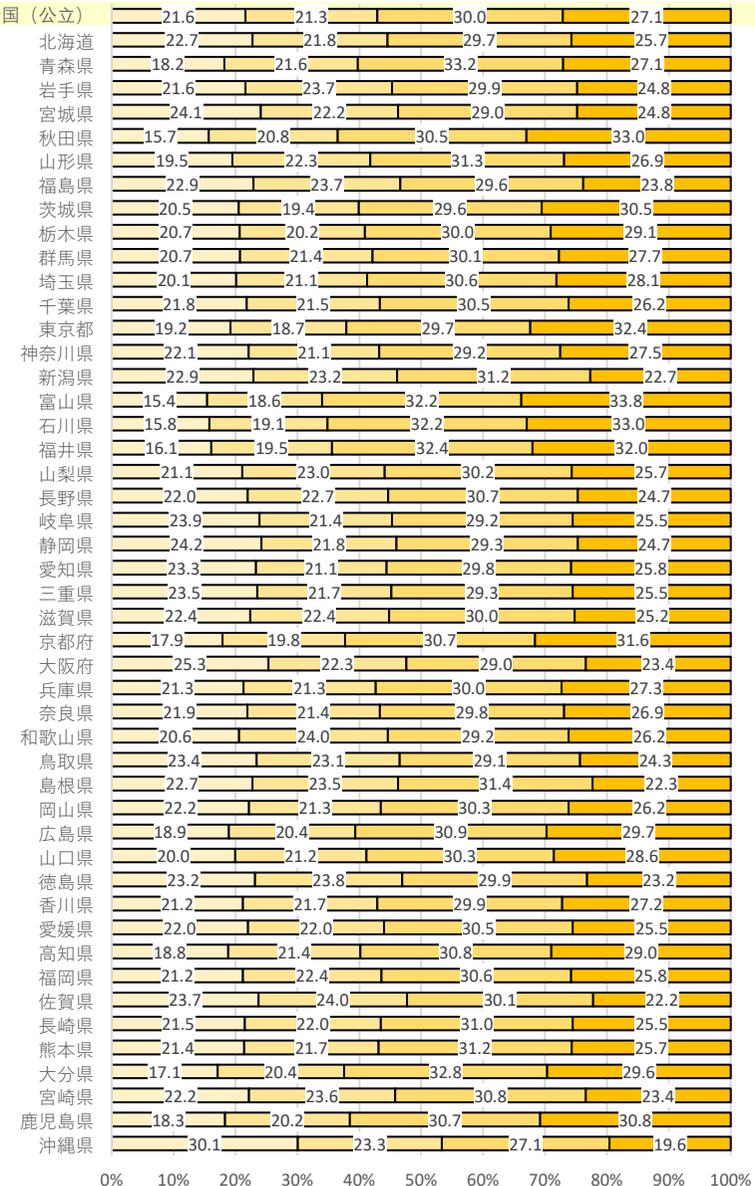
#### 小・算数

D層 0~5問 C層 6~9問 B層 10~12問 A層 13~16問



#### 小・理科

D層 0~6問 C層 7~9問 B層 10~12問 A層 13~17問



### ③都道府県(指定都市を含む)別 正答数・IRTバンドの層分布

ポイント

全ての教科において、各都道府県の正答数・IRTバンドの層分布は、全国的な傾向と大きな差はみられない。一部の都道府県で、全国(公立)と比べてD層の割合が10ポイント以上多い。また、バンド1の割合が1/2以下となっている。

R7

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。  
※中学校理科については、3を基準とし、5を最も高いバンドとしている。

#### 中・国語

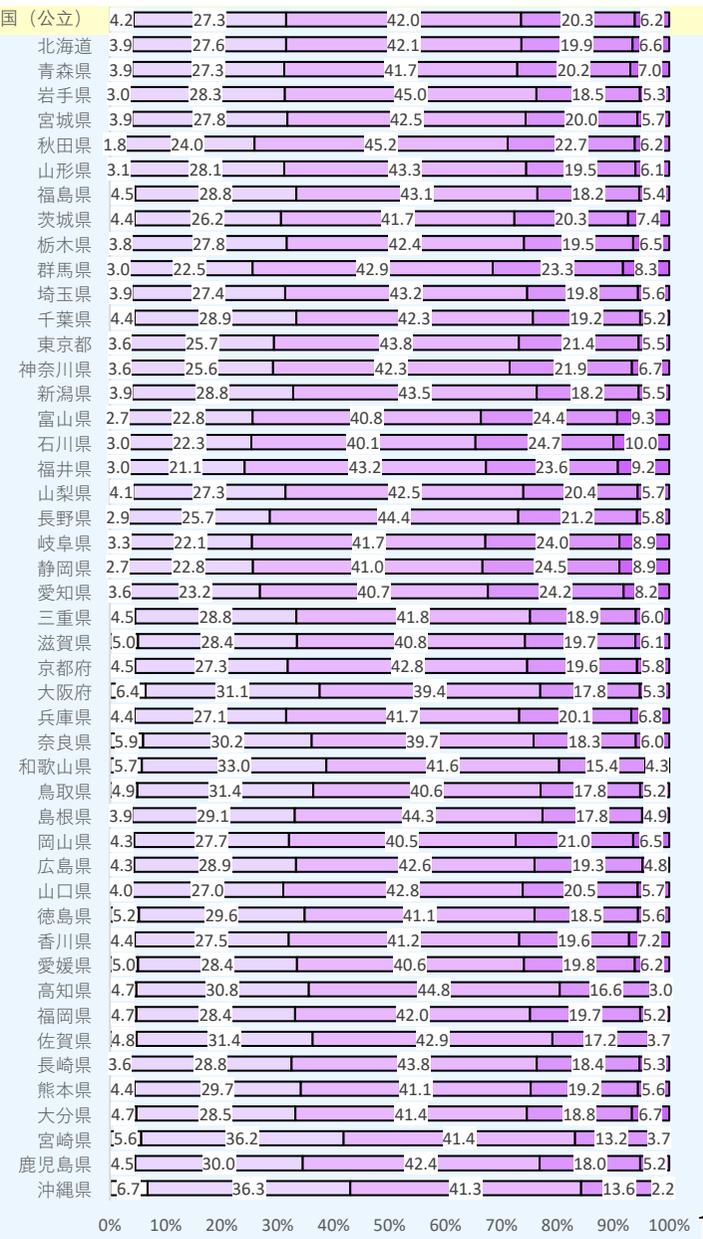
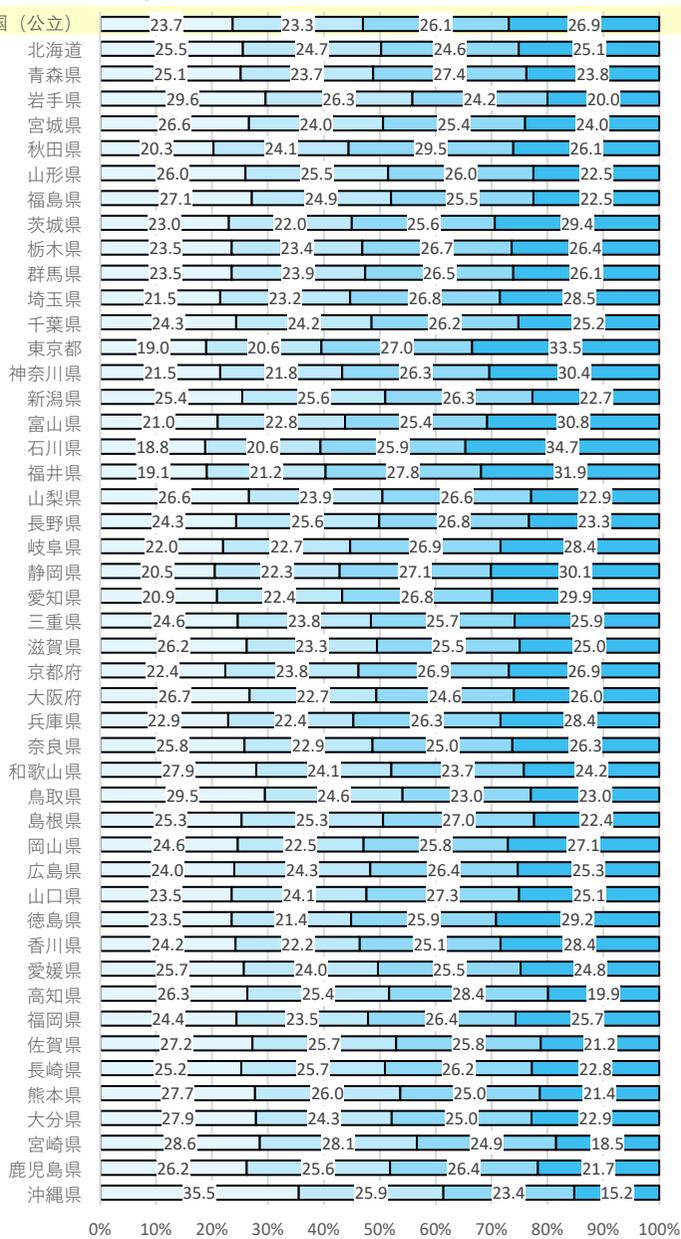
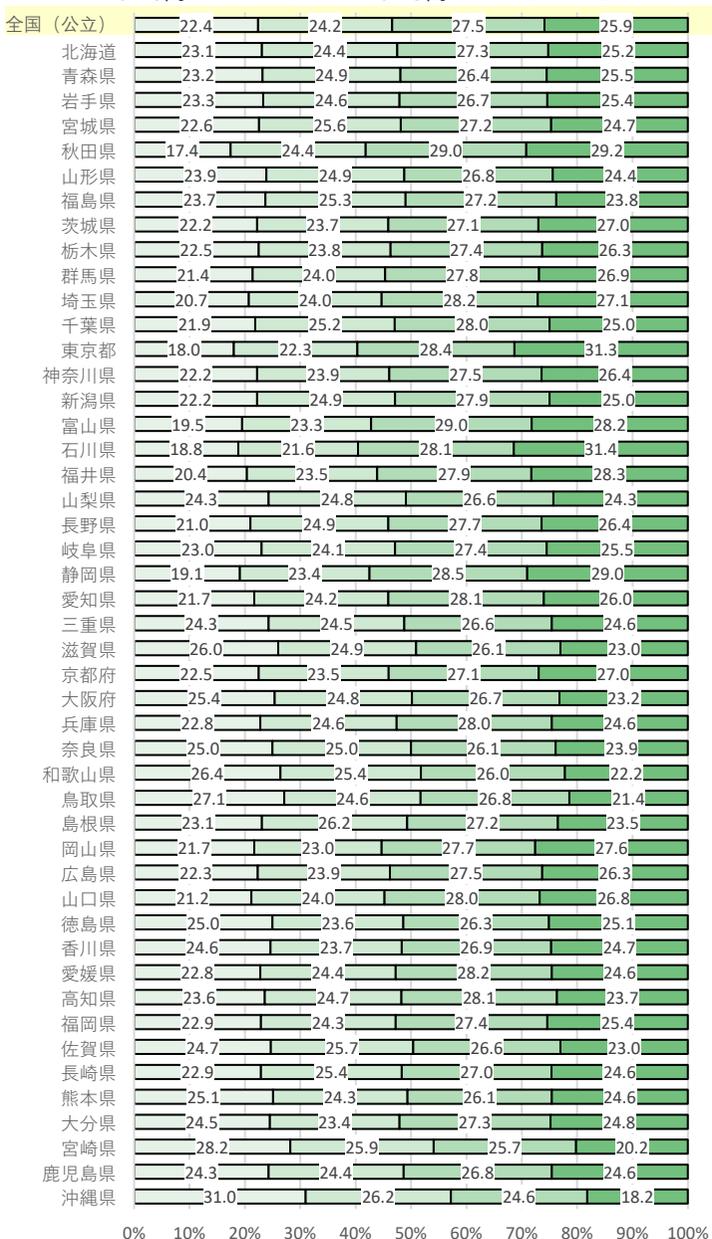
D層 0~5問 C層 6~7問 B層 8~9問 A層 10~14問

#### 中・数学

D層 0~3問 C層 4~6問 B層 7~10問 A層 11~15問

#### 中・理科

バンド1 ~317 バンド2 318~442 バンド3 443~567 バンド4 568~691 バンド5 692~

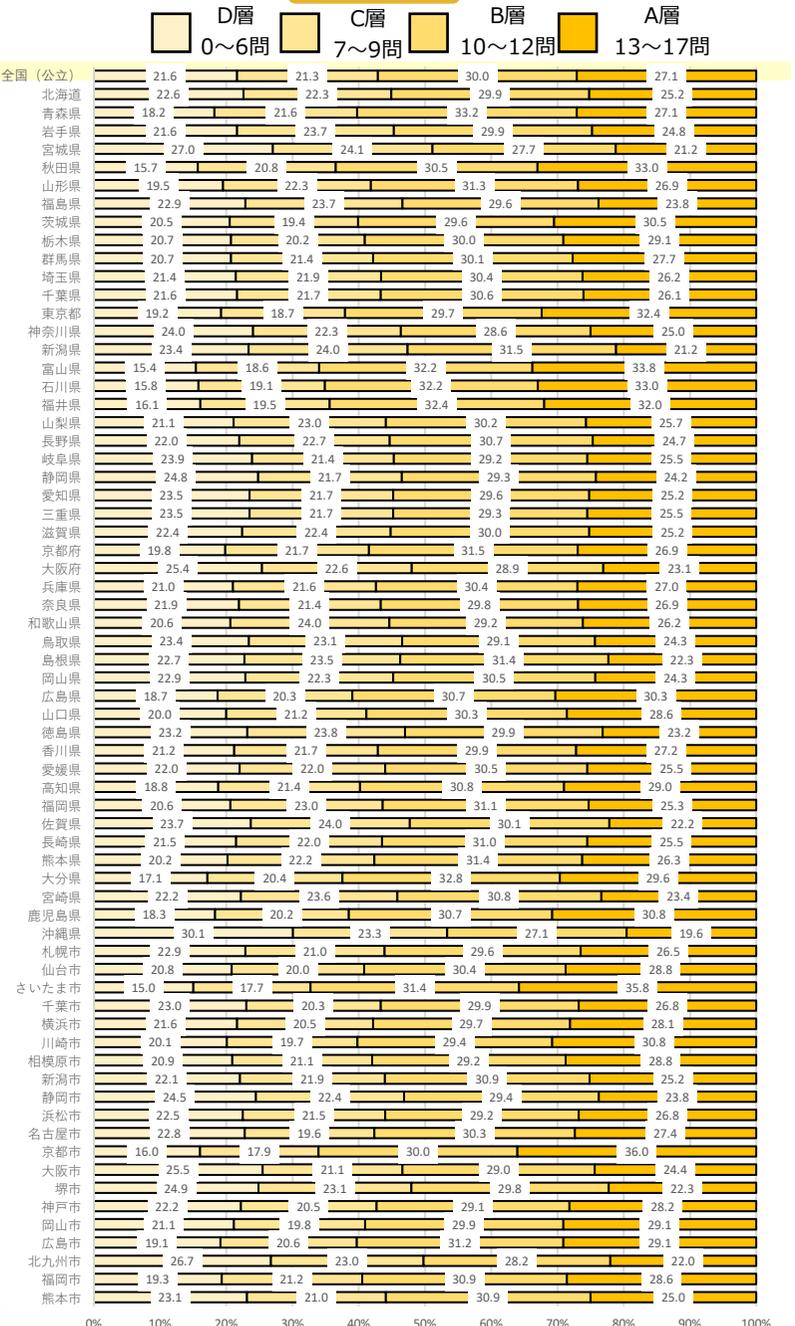
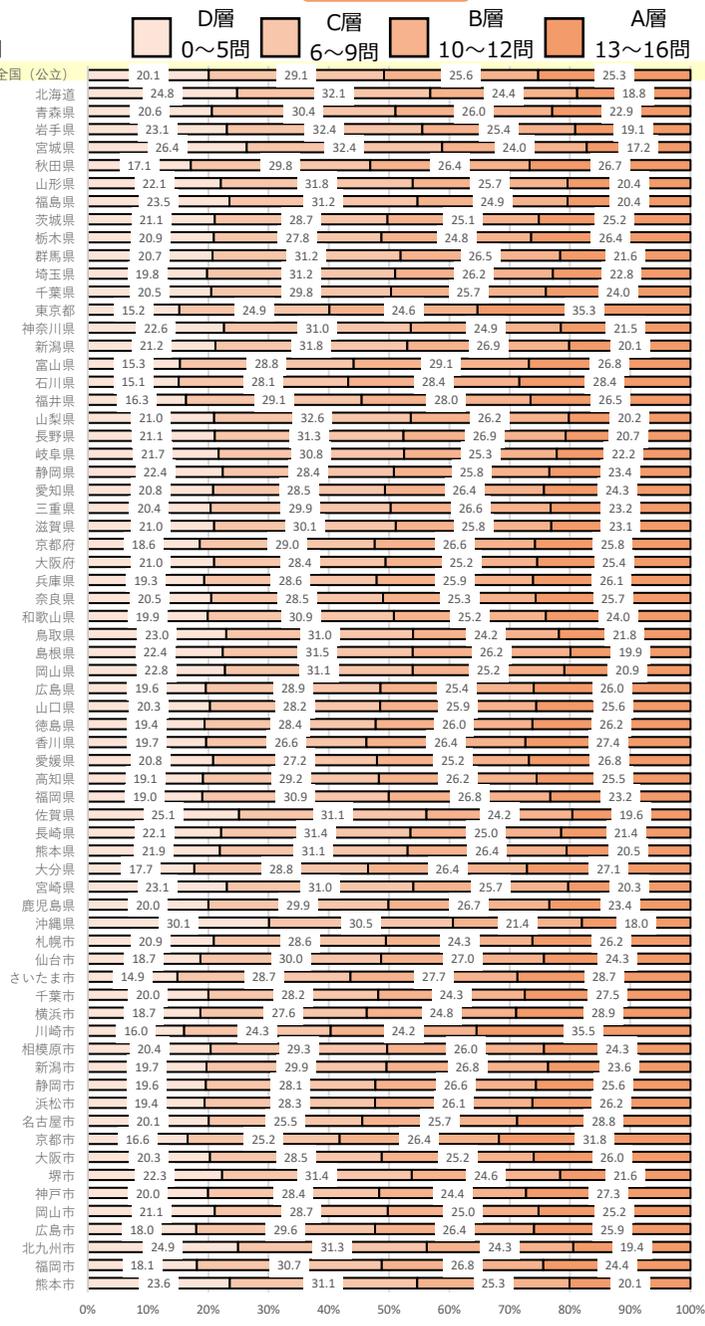
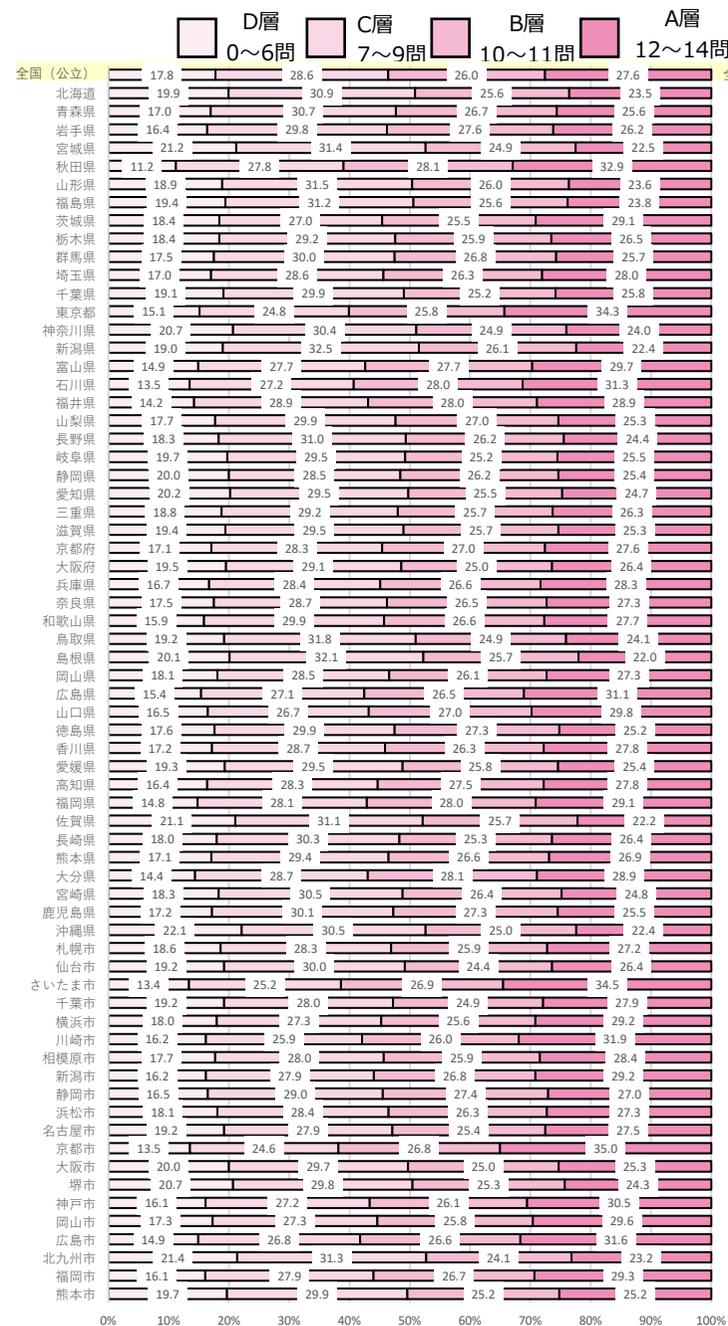


※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。

小・国語

小・算数

小・理科



④都道府県(指定都市を除く)・指定都市別  
正答数・IRTバンドの層分布

ポイント

全ての教科において、各都道府県・指定都市の正答数・IRTバンドの層分布は、全国的な傾向と大きな差はみられない。一部の都道府県・指定都市で、全国(公立)と比べてD層の割合が10ポイント以上多い又はバンド1の割合が2倍以上多い。また、バンド1の割合が1/2以下となっている。

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。  
※中学校理科については、3を基準とし、5を最も高いバンドとしている。

中・国語



中・数学



中・理科

